

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	嬉野市立久間小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	【学力の向上】・・・国語科の校内研究では、「思考ツール」を使用し、自分の考えを整理させたことで、自信をもって話し合い活動に参加する児童が増えた。次年度も「思考ツール」を研究し、活用法を広げていきたい。ICT利活用については、情報コーディネーターを中心に職員研修会を開催し、タブレットの活用法を広げることができた。 【心の教育】・・・教職員が、「褒めて育てる」指導を心がけたり、児童同士が互いの良さを認め合う活動を仕組んだりしたことで自己肯定感を高めることができた。次年度も「相手意識」を考えて行動することができる児童を育成するための取組を行っていきたい。 【健康・体づくり】・・・委員会の児童を中心に活動を仕組むなど、児童が主体的に運動する環境を整えることができた。「望ましい生活習慣」については、保護者との連携を更に深めていく必要がある。 【業務改善】・・・完全定時退勤日を設定したり、管理職からの日々の声掛けを行ったりして時間外自発勤務時間は減っている。しかし、大幅な効果までは見られない。生成A I等のICT利活用を行ったり、学校行事や校時表等の見直しをしたりして更なる業務改善に努めていきたい。 【地域連携】・・・久間地域コミュニティとの連携を密にし、地域体験学習を充実させることができた。児童は、学校だけではできない貴重な体験を通して地域を愛する心を育むことができた。次年度は、地域体験活動の教育的意義を再度確認して、目的を見据えた活動になるように計画していきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	いきいき久間っ子の育成 くま・・工夫して学ぶ子 つ・・強くてたくましい子 こ・・心やさしい子
----------	---

3 本年度の重点目標	【学力の向上】・・・小中連携による学力向上推進事業の基、久間メソッドや家庭学習の手引きの活用により学習規律や家庭学習の習慣をおおむね確立させることができた。また、校内研究を柱とした「自分の考えを形成し、主体的に伝え合う児童」を育てる取組では、思考ツールの活用により一定の成果を上げることができた。今後、児童が「考えたい」「伝え合いたい」と感じる課題設定を重視するとともに、思考ツールを目的に応じて選択・活用することで、主体的に考えを形成し、伝え合うことができるように、校内研究を進めていく。 【心の教育】・・・「ほめるから、はじめる。はじまる。」を第一に考え、ほめて力を伸ばす教育を徹底し、自己肯定感を高めていきたい。年間を通して命や「相手意識」を考えて行動する大切さを児童に投げかけ、互いの良さを認め合える児童集団にし、全児童が意欲的に学校生活を送れるようにしたい。 【健康・体づくり】・・・「自分の命や健康は自分で守る」意識を高めるため、基本的生活習慣の確立や健康教育に取り組んだ。就寝時刻など望ましい生活習慣の形成において、十分とは言えなかった。望ましい生活習慣や食習慣を身に付けさせられることができるように家庭への啓発活動を進めていく。 【業務改善】・・・定時退勤日の設定など効果が見られる取組もあるが、時間外在校等時間が360時間を超える職員が複数人見られた。継続的な声かけや指導を行うとともに学校行事等の精選を行うなど業務改善と働き方改革に努める。
------------	---

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担 当者
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 学習内容の定着に向けた分かりやすい 授業の実践	○「久間小メソッド」に基づく授業づくりに取り 組んだ」と回答した教師の割合85%以上	・職員会議で「久間小メソッド」についての確認と全職員で の問題解決型授業の実践を行う。 ・朝読書や「言葉の宝箱」の活用により、豊かな語彙力の 醸成を目指す。						工夫P	
	○タブレットの活用の推進	○「タブレットを活用することで、何かを 調べたり発表したりして学習に生かすこ とができた」と回答した児童の割合80% 以上	・ミライシードを活用したドリル学習に取り組ませる。 ・画像や情報などのデータの活用を図る。 ・各教科の特性に応じた活用方法(ソフト等)について職員 研修を行う。						工夫P	
	○校内研究の充実 自分の考えを形成し、主体的に 伝え合う児童の育成	○「自分の考えをもって交流活動に 参加している」と回答した児童の割 合80%以上	・自分の考えを整理するための手段(思考ツール活用)の 研修を行う。 ・学習のめあてにつながる伝え合い活動の場を工夫する。 ・授業研究会による実践研修を行う。						工夫P	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重す る心、他者への思いやりや社会性、 倫理観や正義感、感動する心など、 豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分にはよいところがある」と回 答した児童の割合80%以上	・年間2回の人権集会や年間を通した「ほめほめの 木」を充実させる。 ・全校朝会で3つの合言葉「あいさつ」「そうじ」「過ご し方」を全校で確認する。						心P	
	●いじめの早期発見、早期対 応に向けた取組の充実	○「友達の気持ちを考えた発言や 行動をしている」と回答した児童の 割合80%以上	・年に2回以上の児童との面談や定期的なアンケートを実施 する。 ・「心のポスト」を設置し、いじめ問題の早期発見、早期対応に 努める。 ・児童への情報モラル教育の実施や保護者への情報モラル についての啓発をし相手意識を高める。						心P	
	●児童生徒が夢や目標を持 ち、その実現に向けて意欲的 に取り組もうとするための教 育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めて くれていると思う」と回答した児童の割 合85%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」に ついて肯定的な回答をした児童の割合 80%以上	・教師は、児童のよさを認める言葉かけに努めると共にノートや ワークシートにほめ言葉を残す。 ・キャリアパスポートや行事作文での取組を通した短期目標と長期 目標の意識化させるとともに振り返り活動を充実させる。 ・学級活動、学級通信等でお互いのよさや頑張りを認め合う場を設 定する。 ・高学年において、「職業学習」等を取り入れたグローバルデーに 取り組む。						工夫P	
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着 化」	●「授業以外で運動やスポーツを行う時 間が1週間で420分以上」と回答した児 童の割合70%以上	・縦割り共遊やがんばるマラソン、久間リンピック、 スポーツチャレンジなど全クラスで取り組む。 ・委員会活動(体育)や放送による外遊びを推奨す る。						強い子 P	
	●「望ましい生活習慣の形 成」	●「低学年は9時まで、中学年は9時30 分、高学年10時までに寝ている」と回答 した児童の割合70%以上	・生活・家庭学習チェックシートに取り組み、生 活リズムが崩れないように啓発する。						強い子 P	
	●「望ましい食習慣と食の自 己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と 回答した児童の割合80%以上	・栄養教諭と協力して、食育に関する指導を全学 年で行う。 ・食習慣に関する保健だよりの発行を行い、より良 い食習慣についての啓発を行う。						強い子 P	
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間 外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等 時間の上限を遵守(月45時間、年間360時 間) ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当 たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週金曜日の定時退勤日と月1回の完全消灯日を設けるとともに 職員会議等でワークライフマネジメントについて指導する。 ・業務記録票を基に時間外自発勤務が多い職員には、管理職から 業務の効率的な遂行や早めの退勤について声掛けや指導を行う。						教頭	
●特別支援教育の充実	○配慮が必要な児童の実態把 握、合理的配慮の提供、校内支 援体制の充実 学習環境や授業のUD化	○「私は、全ての児童に効果的な視覚 支援を取り入れた授業や、多様性を尊 重した指導を心掛けている」と回答した 職員の割合80%以上	・毎週、配慮が必要な児童の共通理解・実態把握を行い、それに基づ いた校内の指導体制を構築する。 ・通常学級において合理的配慮を提供(視覚支援の充実・学習の すすめ方や道具類等の系統性をもたせた指導)する。 ・気になる児童について早期に支援会議を行い、支援体制を整え る。						心P	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担 当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域連携	○保護者・地域コミュニティと の連携促進	○「地域コミュニティや地域の教育 力を活用した実践を計画的に行っ ている」と回答した教員の割合80% 以上	・久間コミ活動等地域連携活動を教科等の年 間計画に明示する。 ・各学年で地域コミュニティや地域の教育力を 生かした教科横断的な単元に年に1回以上実 施する。 ・学校便りや学校HPIによる情報発信を行う。							教務主 任

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--